

2015年度 湘南藤沢学会 研究助成基金

成果報告書

宮城県気仙沼市における地域コミュニティ共創プロジェクト —研究成果のフィードバックによるコミュニティ意識の醸成—

環境情報学部3年 桑山菊夏

環境情報学部4年 山崎一臣

環境情報学部2年 林剛弘

政策・メディア研究科後期博士課程2年 坂井田 瑠衣

1. 研究背景と目的

これまで我々は、宮城県気仙沼市の地域住民に対し、地域の魅力や人生哲学についてのインタビューを実施してきた。インタビュー記事を地域に共有し、インフォーマント間のコミュニケーションを促進することで、地域住民と学生による地域コミュニティ共創プロジェクトを進めてきた。昨年度は、2種類のインタビューによって追跡調査し、本研究の手法が人々の価値観の内省を促すことに貢献したことを明らかにした。しかし、我々の試みが個々人の人生哲学の内省に大きく寄与している一方で、人々の社会的関係の構築に十全に貢献するにはさらなる仕掛けが必要であるという問題意識が生じた。

これを受けて本年度は、インフォーマント同士の新たなつながりの発見を促すために、収集したインタビュー記事をもとに冊子メディアを制作した。各インフォーマントが語った着眼点同士の類似性を分析し、可視化した冊子である。それを踏まえて本活動では、宮城県気仙沼市における地域コミュニティ共創プロジェクトに参画したインフォーマントらに研究成果をフィードバックし、彼らのコミュニティ意識に変化を生じさせることを目的とした。この冊子メディアを各インフォーマントに配布することで、インフォーマント同士の新たな関係性の発見や内省を促すことを試みた。

2. 研究内容

これまで収集してきたインタビュー記事を利用して制作した冊子メディアを、これまでに本研究に参画したインフォーマントらに配布した。

2.1 冊子メディアの配布

気仙沼市に在住する各インフォーマントを訪問し、制作した冊子メディアを配布した。過去にインタビューを行った我々が各インフォーマントのもとへ赴き、本冊子の趣旨を説明した上で配布し、その場で読んでもらった。配布した冊子メディアは、イ

インタビュー記事の内容分析によって、各インフォーマントの着眼点同士の類似点を見出し、類似した着眼点を持つインフォーマントのインタビュー記事をまとめたものである。インフォーマント同士の新たな関係性の発見を促すことをねらいとしている。

2.2 インフォーマル・インタビュー

制作した冊子を、単にインフォーマントたちに配布するだけでは十分ではない。制作物に対するインフォーマントの反応を、聞き手の積極的介入を奨励するアクティブ・インタビュー[1]の方法で制作者自身が聞き出すことで、より深い意識の変化を起こすことができる。これまでに我々との社会的関係を築いてきたインフォーマントたちに対し、積極的介入によるコミュニティ意識の変化を生じさせ、本プロジェクトに参画した意義を見出してもらうことを期待した。インフォーマントらが冊子を読んだ上で抱いた意識を尋ねるだけでなく、我々の所感を伴う質問を投げかける中で、編集された冊子に対するフィードバックを得た。

3. 調査結果

2日程で計10名のインフォーマントを訪問し、各インフォーマントに冊子を配布し、インフォーマル・インタビューを実施した。「震災を通して深まったつながりがこれでまた認識できる」、「(震災後の) 節目に読み返してもう一回振り返りをするのに重要かも」などの所感が聞かれた。また、「当初はこのような形でまとまるとは思っていなかったのが驚いた」、「普段それほど深い話をするのではなく、(記事を読んで) 皆さんが持っている想いを知った」というような継続的な我々の活動への評価を含んだ意見も多数得られた。

4. 結論

本研究ではこれまで、インタビュー記事をもとに、インフォーマント毎に個別のポストカードを制作してきた。今年度は、これまでのポストカード形式とは異なり、冊子という媒体によって研究者の分析的な視点を積極的にインフォーマントにフィードバックすることで、インフォーマント同士の関係性の発見を促した。単なる研究者のための社会調査としてインタビューを行なうだけでなく、得られた知見を現場に還元することにより、現場と研究者の双方に知見をもたらすことができる有効手法を構築できた。

[参考文献]

[1] James A. Holstein, J. A., Gubrium, J. F. (1995). The Active Interview. SAGE Publications.